

2010年2月24日

## 出張報告書

京都FD開発推進センター

深野 政之

日程：2010年2月22日(月) 13:00～17:30

行事名：金沢大学 大学教育セミナー「アクティブラーニングが創る大学教育の未来」

出張先：金沢大学サテライトプラザ（石川県金沢市西町三番丁16番地）

参加者：深野、(井上)

### プログラム

- ・基調講演：「主体的な授業を求めて—私の実践から—」  
赤堀侃司氏（白鷺大学教育学部 教授/東京工業大学 名誉教授）
- ・講演：「知識・技能・態度の全体的育成を目指すアクティブラーニング—授業デザインと評価の関連に焦点づけて」  
溝上慎一氏（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）
- ・講演：「学習空間とアクティブラーニング—東京大学 KALS の実践をもとに—」  
西森年寿氏（東京大学教養学部附属教養教育開発機構特任准教授）
- ・パネルディスカッション：赤堀氏、溝上氏、西森氏（司会：山田政寛）

### 講演報告

赤堀氏は、長年にわたり東京工業大学において授業改善に取り組み、改善ティップス集なども作っていたが、現在の大学に転任してから全く状況が変わり、学生主体型の授業を展開している経験が話された。

溝上氏は、アクティブラーニングの定義を一方通行の講義形式以外のすべての授業・学習形式と定義した上で、双方向授業や学生主体型授業、学生の自律的学習など、ご自身の授業での経験も踏まえて、アクティブラーニングの実践とその評価について話された。

西森氏からは、東京大学教養学部の新しい教室にアクティブラーニングのための環境・設備を取り入れた取り組みの紹介と、授業サポートの実践について報告があった。コクヨの全面的なバックアップを受けて、グループ学習や発表形式の授業をしやすい教室を作ったが、実際の授業の中では先生が話をする時間が多くを占めるため、講義教室形式に戻したりホワイトボードを増やしたりといった運用面での工夫が話された。

### 報告者の所感

赤堀先生の大学を移ったことによる体験談は、多くの参加者との共通体験でもあり、非常に興味深く、その中で苦心されている姿勢に共感を覚えた。

パネルディスカッションでは、アクティブラーニングの定義がパネラー間、出席者間で違っていたため、話がかみ合わない場面が多くみられたが、赤堀先生、溝上先生ともに、授業での実践と学生の実態という体験に基づく例示を多く取り入れようと努力されていて、参加者にも役立つディスカッションであった。

東京大学教養学部の事例は、多くの私立大学では事務職員が担っている業務であり、むしろSDの研修課題とした方がよいのではないかと感じた。

以上